

作品名 捨てられた魚達



一年生  
富野×津保川

で見えてきた地域の姿のまとめ

# 富野中学校1・2年生 総合的な学習の時間 まとめ新聞

2023年(令和5年)3月  
発行所  
関市立富野中学校  
1・2年生  
関市志津野 2972  
〒501-3205  
電話 0575-29-0870

上の写真は、私たちが川で拾ってきたゴミを材料として制作したアート作品です。骨を色々なゴミで作ることを工夫しました。  
ふるさとを流れる津保川は、一見すると、青々と透き通った水が美しく見えます。しかし、河原や茂みをよく見ると多くのゴミがあります。このアート作品を通して、ゴミ拾いの大切さや、津保川の現状を、地域の人に伝えたいと思っています。実を言うと、最初から制作を目的として始まった学習ではありませんでした。ここでは、アート制作に至るまでの学習過程を紹介します。 福田心海(捨てられた魚達 制作)  
山口虹登、佐藤翼、小森渚、石竹紘也、福田心海

解き明かせ!

長良川システムの謎

私たちは、長良川システムとは何かを学びに、「あゆパーク」を訪れました。そこで、森が川を綺麗にし、私たちを癒してくれているということ、鮎は地域の宝として、守っていかねばいけない存在であることを学びました。

林業体験では、腰を曲げて作業していく林業の大変さを知りました。鮎のつかみ取りでは、鮎の香りや美味しさを知りました。

森を手入れして川の美しさを守り、それが鮎という私たちの宝物を育む、というのが長良川システムなのだと学びました。 山口虹登



清流長良川あゆパーク(郡上市白鳥町長滝 420-10)にて長良川を眺める

受け継がれる知識!

鮎名人の話

私たちは鮎についての学びを深めるため、鮎名人の石原強兵さんのお話を聞きました。まず、鮎の生態について学びました。海に行く鮎と川に残る鮎がいて、それらの鮎は鱗に違いがあること、海に行った鮎は鱗が小さいことなどが分かりました。

次に、鮎を捕まえる道具について説明していただき、実際に触れさせていただきました。鮎を捕まえる手段は、友釣りだけではないと知ることができました。私たちは、鮎についてたくさん学び、知識をつけてから友釣りへと向かうことができました。 佐藤翼



鮎捕りたくなってきたあぁあぁ!

釣れました!なんと一匹! 強兵さんの話の後日、津保川で鮎の友釣りを行いました。友釣りは、自分の縄張りに入ってきた鮎を攻撃するという鮎の習性を使った釣りです。しかし、実際にやるとうまくいかず、鮎がどこにいるのかわからなくなっていました。さらに、竿の重みでじわじわと腕が痛くなりました。そんな中、福田心海さんが一匹釣り上げることができました。そこから、釣れることはなく、結局一匹で終わってしまいました。けれども、この体験で得ることができたのは、鮎一匹以上のひたむきに取り組む心だと私たちは考えます。 山口虹登



富野の美しい自然をいつまでも!

津保川の現状

鮎釣りの時に、意外なものが落ちていました。ゴミです。綺麗だと思っていた津保川に、なんとゴミが落ちていました。缶やビニール、プラスチック、陶器など、たくさんの種類を確認しました。

僕たちはこれまで、大量のゴミがあることを知らなかったのですが、とても驚きました。そこで、今の津保川について、三年生の先輩に聞きました。先輩方は、「知らなかった。」と話していました。

私たちは、身近なものの問題にこれまで気づいていなかったのです。  
小森渚

ゴミが落ちている環境は

落ちていたゴミは、私たちの想像以上に多くありました。ゴミは川の中にあるのではなく、ほとんどが川岸にあることに気がきました。たくさんのゴミが落ちていたという事は、それだけ川の環境が悪いということになります。

私は、川の状態を見て、このままでは、川が環境が悪化し続けてしまおうと思いました。  
村井瑠奈

ゴミの種類と日本の水害の影響

そこで、もっと津保川の環境を良くしたいと思い、一年生でゴミ拾いをしました。ゴミ拾いをしてみて、特に多かったと感じたゴミは、ペットボトルや、針金などのアルミ製の金属、茶碗のかけらです。

これら全てが、意図的に捨てられたものかどうかは分かりませんが、この地域で二〇一八年六月二十八日から七月八日にかけて発生した、豪雨の影響で流れ着いたものなのかもしれないと考えました。  
杉浦佐丞



心るべきのゴミを

減らすために私達は...

これからは、私たちの大切なふるさとの自然環境を守るために、分別してゴミを捨てることや、ゴミを拾おうとする意識を高め、落ちているゴミの量を減らすようにしていきます。



佐藤陽菜

河川環境保護啓発ポスター展 @まとめ新聞

これらのポスターや、表紙のアート作品「捨てられた魚達」は、私たちの住んでいるふるさとの津保川に、どれだけのゴミがあるか、その現状を知ってもらいたくして制作したものです。作成したポスターのうち、選りすぐりの六枚は、富野ふれあいセンターに掲示してありますので、お立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。一年生一同

STOP! ポイ捨て



ポイ捨てされたゴミ 特に マイクロプラスチックゴミは 土に還らず ずっと残り続けます。

令和4年度園市立富野中学校 TEAMXII PROJECT

知ってる? 川の状況



川に捨てられていたゴミです。私達は、ゴミ拾いを行いました。その中でも、川に落ちている訳がない物が落ちていました。

まだ川には、ゴミが落ちています。皆さんの協力で、ゴミは減ります。地域のために ゴミ拾いのご協力をお願いします。

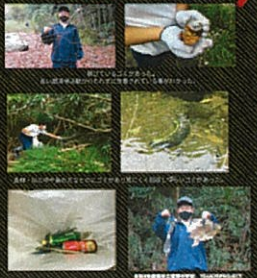
ゴミ捨てダメ絶対!



工夫した点は、ゴミが捨てられた後に、どうなるか書いてあるところです。これを見て、地域の川にゴミが多く落ちていているという現実を目を向け、しっかりと処分しようという思いをもってほしいです。地域の皆さんも、進んでゴミを拾っていただけると嬉しいです。  
小瀬木了三

タイヤ、鉄パイプなどの大きなゴミもありました。このようなゴミが地域の川に沈んでいるという状況です。だからこそ、皆さんも地域の川、津保川に目を向けてみてはどうでしょうか? 眞鍋獅月

ゴミを拾おう



今、津保川にどれだけのゴミが落ちていて、どのような種類がどんな場所に落ちているのかを知ってもらう為に制作しました。ボランティアとして地域の清掃活動に積極的に参加して、津保川をこれ以上汚さないようにしてほしいと思います。  
西村翔真



手作り弁当、召し上がれ!

「わあ! このハンバーグ弁当美味しそう! いっただっきまーす! あれ? これ、よく見るとゴミじゃーん! ゴミは食べたくないよお...」津保川に落ちていた缶の入れ物を弁当箱として、陶器を二飯、プラスチックをハンバーグや野菜に見立てて、弁当アート作品を作りました。食材に合わせる、質感や色合いなど本物に近づけることを工夫しました。  
将来、津保川で「ゴミ」弁当アート作品が作られないことを、心から願っています。  
石竹紘也  
「ハンバーグ弁当 制作」  
福田心海、石竹紘也

